

**令和4年度
全国学力・学習状況調査
学校の調査結果**



**令和4年12月
海老名市立社家小学校**

令和4年度

全国学力・学習状況調査について

調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3)そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年，中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

- (1)教科に関する調査(国語，算数・数学及び理科)

出題範囲は，調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし，出題内容は，それぞれの学年・教科に関し，以下のとおりとする。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では，上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については，記述式の問題を一定割合で導入する。

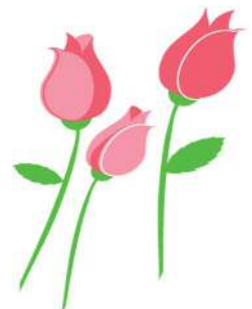
- (2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

調査実施日

令和4年4月19日(火)

※児童生徒質問紙調査について，一部の学校で，端末を活用したオンラインによる回答方式で実施



小学校 国語

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・話し言葉と書き言葉との違いを理解することができるかどうかをみる。
- ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることができるかどうかをみる。
- ・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容の中心を捉えることができるかどうかをみる。
- ・互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。
- ・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができるかどうかをみる。
- ・登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。
- ・人物像や物語の全体像を具体的に想像することができるかどうかをみる。
- ・表現の効果を考えることができるかどうかをみる。
- ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができるかどうかをみる。
- ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるかどうかをみる。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。
- ・漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

○「読むこと」に関する領域

- ・人物像や物語の全体像を具体的に想像することができる児童が比較的多い。正答率は全国平均よりも8ポイント上回っている。

○「言葉の使い方に関する事項」

- ・話し言葉と書き言葉との違いを理解することができる児童が多い。正答率は全国平均より2ポイント上回り、無解答率が低い。

◆課題のある点

○「話すこと・聞くこと」に関する領域

- ・互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題の正答率が低い。全国平均より5ポイント下回った。
- 無解答率
 - ・自分の考えを記述する問題や、漢字を書く問題の無解答率が10%から15%と比較的高い。

今後の具体的な指導改善のポイント

○話し合う場の設定

- ・学級活動や授業の中で話し合いの場を多く設定し、自分の意見を根拠・理由・主張を意識させることで、他者の意見を聞いて自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。

○書く力をつける指導

- ・授業の中だけではなく、家庭学習で日記やテーマ作文などを書く課題を出し、自分の考えを文章に表してまとめる習慣をつける。

小学校 算数

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・二つの数の最小公倍数を求めることができるかどうかをみる。
- ・示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できるかどうかをみる。
- ・示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できるかどうかをみる。
- ・百分率で表された割合を分数で表し、基準量から、比較量を求めることができるかどうかをみる。
- ・示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかどうかをみる。
- ・二つの数量が比例関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できるかどうかをみる。
- ・全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができるかどうかをみる。
- ・分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できるかどうかをみる。
- ・目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる。
- ・加法と乗法の混合した数の求め方を解釈し、他の場合の求め方と答えを記述できるかどうかをみる。
- ・正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できるかどうかをみる。
- ・長方形・ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解しているかどうかをみる。
- ・作図手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

○数と計算の問題

- ・整数の情報の計算を正確に求めることができている児童が多い。

○データの活用の問題

- ・正答率が県や全国平均より高い結果となった。問題を数式化し、順序良く立式して答えを求めることができている児童が多い。
- ・分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え答えを求めることができる児童が多い。

○図形の問題

- ・正答率が比較的高い結果となった。正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、答えを求めることができる児童が多い。
- ・図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質・構成の仕方について理解し、答えを求めることができる児童が多い。

◆課題のある点

○変化と関係の問題

- ・正答率が全国平均より下回っている。数量が変わっても割合は変わらないという点について、理解が不十分であった。

今後の具体的な指導改善のポイント

○生活経験との関連づけ

「割合」が、日常生活の多くの場面で活用されていることを想起させ、理解できるようにする。その際、生活経験を基にした判断と、計算で求めた結果を、関連づけて考えることができるようにする。

小学校 理科

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。
- ・問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる。
- ・昆虫の体のつくりを理解しているかどうかをみる。
- ・提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。
- ・他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。
- ・メスシリンダーという器具を理解し、正しい扱い方を身に付けているかどうかをみる。
- ・問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。
- ・他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる。
- ・日光は直進することを理解しているかどうかをみる。
- ・実験の過程や得られた結果を適切に記録しているかどうかをみる。
- ・実験や観察で得た結果を解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる。
- ・結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。
- ・結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。
- ・水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解しているかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

○「粒子」領域の問題

- ・水溶液の凍り方や器具について理解している児童が比較的多い。正答率は全国平均を上回った。

○「生命」領域の問題

- ・全国平均と同様の傾向が見られ、正答率が最も高かった。無解答率が低く、昆虫の体のつくりや育ち方について理解している児童が多い。

◆課題のある点

○「エネルギー」領域の問題

- ・全国平均と同様の傾向が見られ、正答率が最も低かった。日光は直進するといった内容を苦手とする児童が多い。

○問題形式

- ・実験結果を分析して解釈し、自分の考えをもつことで解答する形式の問題において、無解答率が高かった。

今後の具体的な指導改善のポイント

○考えを伝え合う

- ・お互いの考えを伝え合い、複数の視点で分析することで、新たな考えを持つことができたり、自分の考えに自信を持つ根拠を得たりすることができるように取り組んでいく。
- ・教師は、ファシリテーターの役割で児童の考えを言語化したり、「具体的には？」「実際は？」などを問いかけたりしてそれぞれの考えを深めさせていく。

○自分の考えをもつ

- ・「実験からいえること」、「自分や友だちの解釈」などを文字で書き表す時間を確保し、表現を豊かにさせていきたい。
- ・教師は児童の言葉で問題を見出し、自らの言葉でまとめさせ、児童の思考が途切れないような授業をする。

児童質問紙

学習について

◆本校のよかったところ

○算数の学習に対する意識

『算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えていますか』の問いに「考えている」と回答した児童の割合が60%いた。問題にあった解き方を自分なりに探すことができていると考えられる。

○道徳の学習に対する意識

『道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか』の問いに「取り組んでいる」と回答した児童の割合が40%だった。多様な自分の思いを素直に出せる児童が多いと考えられる。

◆本校の課題と思われるところ

○学習に対する気持ち

国語、算数の勉強が好きと回答した児童の割合が、18%、37%と低い結果となり、勉強することに苦手意識がある児童や前向きではない児童が多く見られる。

○授業時間以外の学習時間

1日当たり1時間以上、2時間より少ない児童がほとんどであり、家庭学習の習慣が身につけていない児童が多い。

生活について

◆本校のよかったところ

○友人関係

『友達と協力するのは楽しいと思いますか』の問いに「楽しい」と回答した児童の割合が70%と高い結果になり協調性のある児童が多い。

○PC・タブレットの活用

『学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか』の問いに「思う」と回答した児童の割合は64%以上であった。児童なりに考えて活用できていると考えられる。

◆本校の課題と思われるところ

○チャレンジすることに対する意欲の低さ

『難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか』の問いに「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童の割合が27%だった。チャレンジすることに対する意欲の低さがみられる。

○いじめについて

『いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか』の問いに「当てはまる」と回答した児童が80%を超えたが、全国平均と比べると割合は低く、いじめは許容されることだという認識をもつ児童が少なからずいると考えられる。

今後の具体的な取組について

○教師の手立て

・算数・国語を勉強することは大切だと思っているが、授業に対して前向きでない児童が多いので、教師の手立てとして楽しく、主体的に取り組めるような授業を作っていく。

○授業での活動の工夫を行う。

・算数で友だちと協力して問題解決学習に取り組む、国語で話し合い活動の時間を多く入れるなど、学習内容を自分事としてとらえ、意欲的な学習ができるように支援・指導していく。

○いじめは絶対に許さないという心情を養う。

・道徳の学習や教育活動全体を通して、いじめはどんな理由があってもいけないことであり多様な価値観を認め合う学級・学校となるよう指導していく。

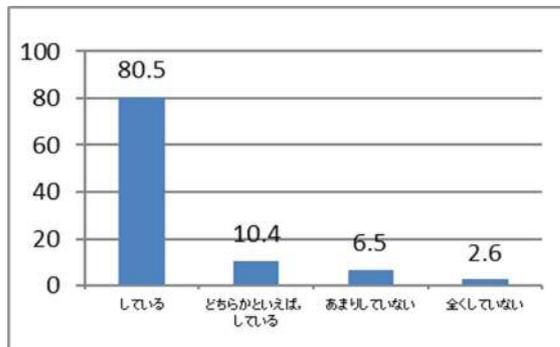


ご家庭で取り組んでいただきたいこと

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。ぜひ、取り組んでみてください。グラフは本校の児童質問紙の結果です。

1 規則正しい生活を続けていきましょう。

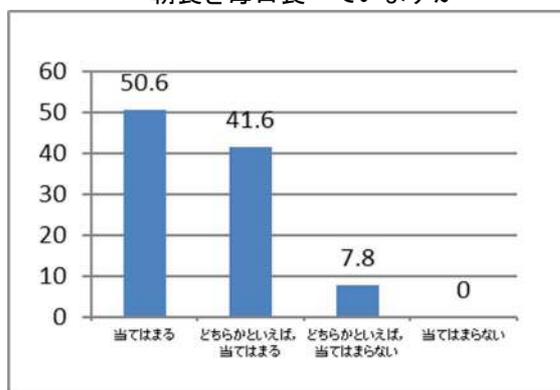
毎日決まった時間に起きて、朝ごはんを食べることで、体のリズムが整い、集中力もアップします。規則正しい生活習慣について、家族みんなで話し合しましょう。



朝食を毎日食べていますか

2 助け合いの気持ちを大切にしていきましょう。

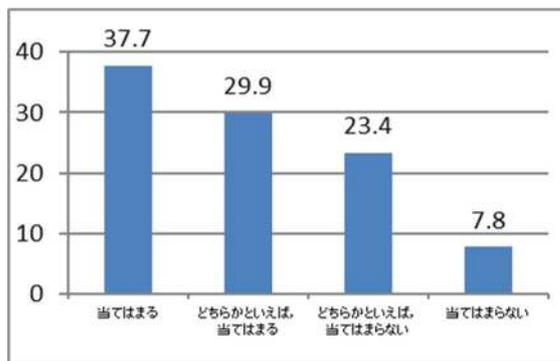
人が困っているとき、進んで助けると答えた子の割合が非常に高いです。社家小のめざす子ども像にも「やさしい心をもち助け合う子」を掲げています。助け合ったり、やさしくしている姿が見られたりする場面が見られたら、ほめて、みとめてあげてください。



人が困っているとき、進んで助けていますか

3 自分の良いところを認め、伸ばしていきましょう。

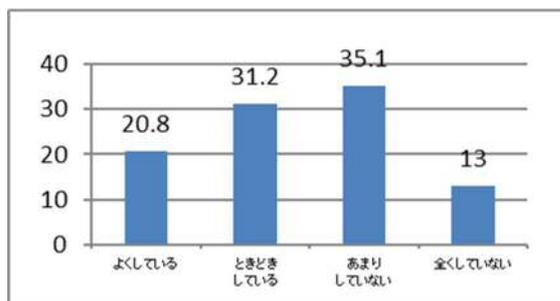
「自分の良いところ」を実感するには、まわりから認められることが大切です。できるようになったことやがんばりを認め、声をかけてあげるとよいでしょう。また、感動やつらい気持ちを共有することも大切です。



自分には、よいところがあると思いますか

4 自分で計画を立てて学習に取り組みましょう。

学校から出される課題だけでなく、自分が興味を持ったことや気になったことを調べることで学習することの楽しさを味わうことができます。そのきっかけ作りや子どもが決めたことへの支援をしていきましょう。



家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか

結果の公表にあたって

- 公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。
- 公表することによって、保護者や市民の皆様にも市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。
- 「市の結果」、「他の学校の結果」は市のホームページでもご覧になれます。



海老名市 全国学力

検索



【市の結果についての問い合わせ先】

電話 046-235-4919

海老名市教育委員会教育支援課 指導係